

平成30年度 第2回中央区支え合いのまち推進協議会議事録

【1】開 催

- 1 会 議 名：平成30年度第2回中央区支え合いのまち推進協議会
- 2 日 時：平成30年12月5日（水） 午前10時～午後0時
- 3 場 所：中央保健福祉センター11階 大会議室、ボランティア活動室1、
ボランティア活動室2
- 4 出 席 者：委員 21人（介助者を除く）
（欠席 7人）
【井上委員、栗田委員、坂本委員、杉野委員、野與委員、長谷川委員、
村井委員】
生活支援コーディネーター等 5人
事務局 10人
傍聴人 1人

【2】次 第

- 1 開 会
- 2 委員長あいさつ
- 3 保健福祉センター長あいさつ
- 4 報告事項
（1）区支え合いのまち推進計画実施状況調査に係る提出調書の変更について
資料1-1 資料1-2
- 5 議題
（1）地域支え合い活動の推進について
 - ・白旗台地区部会における取組みについて 資料2
 - ・各地区部会における取組みについて（グループ別協議） 資料3
- 6 その他
- 7 閉 会

【3】議事及び発言の要旨

報告事項（1）区支え合いのまち推進計画実施状況調査に係る提出調書の変更について

（黒木主査：地域福祉課）

資料1-1、資料1-2を説明。

（武井委員長：中央区町内自治会連絡協議会）

提出調書のうち、取組みテーマ別達成状況 については、中央区は変更なしということ
とでよろしいですね。

（黒木主査：地域福祉課）

ご指摘のとおりです。

(武井委員長：中央区町内自治会連絡協議会)

区の地域福祉に関する好事例等については、誰が作成するのでしょうか。

(黒木主査：地域福祉課)

区支え合いのまち推進協議会事務局にて作成し、本会におけるご承認の後、ご提出いただければと考えております。

(武井委員長：中央区町内自治会連絡協議会)

委員の皆様は、該当事例があれば事務局に情報提供するという位置づけでよろしいですか。

(黒木主査：地域福祉課)

ご指摘のとおりです。

(伊藤委員：松ヶ丘地区部会)

地域における取組みについては、ある程度事務局が把握していると思いますので、事務局から、該当事例に取り組んでいる地区部会に声をかけてもらった方が良いと思います。

議題（１）地域支え合い活動の推進について

・白旗台地区部会における取組みについて

(武井委員長：中央区町内自治会連絡協議会)

資料２を説明。

(宍倉委員：蘇我地区部会)

アンケート調査の対象は、基本的には町内自治会加入世帯ということでしょうか。

(武井委員長：中央区町内自治会連絡協議会)

アンケート調査の対象は、町内自治会加入世帯です。支援の対象については、どこまでを対象とするか、地区部会の中でも意見が分かれて議論しましたし、今でも議論が続いています。基本的には、白旗台地区部会のエリアに住んでいる方については、町内自治会に加入していなくても、対象とすることにしましたが、一つのマンションが丸ごと未加入である場合等を考慮し、未加入世帯には積極的な働きかけは行わず、要望があった場合のみ対応する取り扱いとしました。

(宍倉委員：蘇我地区部会)

協力者に対する保険は、ボランティア保険に加入しているのでしょうか。

(武井委員長：中央区町内自治会連絡協議会)

ボランティア保険とは別に、全国社会福祉協議会の保険で、こういった事業に適当な保険を社会福祉協議会区事務所を紹介してもらい、加入しました。活動件数等によって契約内容がいろいろ変わるため、活動がある程度軌道に乗ったレベルで最適な内容としましたが、活動がまだそのレベルに達していない状況ではあります。

(伊藤委員：松ヶ丘地区部会)

まず、規模の大きさに驚きました。松ヶ丘地区では、平成２２年度から開始しましたが、有料で支援を行うのは難しく、どういった種類の支援を行うのかについて、いろいろな意見が出ました。高齢者が高齢者を支援することになるので、長時間に及ばない活動とし、ご近所の助け合いで対応できるごみ出しのような支援は除外するなどして、皆さんが一番困っている剪定・草取りに絞り込んだ結果、何とか上手く運営することが

できていますが、要望のある支援を全て行うとなれば大変だと思います。

(武井委員長：中央区町内自治会連絡協議会)

スタートする時、ごみ出し・草取り・電球交換だけを行うという意見もあったんですが、支援希望者、支援可能な協力者ともに買い物が最も多かったことから、これも入れて4項目の支援でスタートしました。外出補助も対象にすべきという意見もかなりあったんですが、とりあえず1年目は様子を見て、事業が軌道に乗ったら、来年度あたりから項目を増やすことを検討することにしました。松ヶ丘地区で支援している剪定についても同様で、そのため今年度は、草取りについては、剪定を伴わないものに限定して支援することにしました。

(谷口委員：あんしんケアセンター中央)

あんしんケアセンター中央でも、新宿地区部会エリアでアンケート実施の準備を進めているのですが、これだけの世帯数でアンケートの回収率が54.2パーセントというのはかなり高いと思います。配布や回収の方法について、何か工夫されたことがあれば教えてください。

また、有償でボランティアを行う場合に、支援協力者が直接利用料を受領するのか、コーディネーターが一旦預かるのか教えてください。

(武井委員長：中央区町内自治会連絡協議会)

回収率を上げるために一番努力したのは、町内自治会長の皆さんに事業の趣旨を十分に理解してもらうということで、説明に努めました。その上で、各町内自治会に、回覧により配布し、回収してもらうというシステムで行い、回収率が低い町内自治会に対しては、回収促進に向けた働きかけを行いました。

利用料については、無償にしようという意見もありましたが、若干有償でという意見の方が多かったので、有償としました。利用料の授受は当事者間で直接行い、事務局は、後日、支援協力者から報告書の提出を受けて確認しています。

(植草委員：公募)

アンケート調査の対象は独居高齢者だけでしょうか。それとも、ご家族のある高齢者も含むのでしょうか。

(武井委員長：中央区町内自治会連絡協議会)

アンケート調査は、支援協力者を対象とする内容も含まれていますので、全世帯に配布しましたが、支援の対象は、70歳以上の高齢者または障がい者のみの世帯としています。

(植草委員：公募)

実際に行った支援内容の検証はどのようにしているのでしょうか。

(武井委員長：中央区町内自治会連絡協議会)

支援を受けた方に対しては、何か問題があればコーディネーターに相談するよう案内するとともに、意見を記入してもらうための用紙を渡していますが、記入済み用紙は、主に支援協力者を通じて回収するシステムであることから、悪い意見は記入し難いとの懸念の声もあり、もう少し改善する必要があると考えています。

また、支援協力者の意見を吸い上げる会議も必要だと思いますので、年度末に、実際に活動してみてどうだったか、その結果を今後に反映させるための会議を開催する予定です。

(植草委員：公募)

コーディネーターは、こういった方に依頼されたのでしょうか。

(武井委員長：中央区町内自治会連絡協議会)

コーディネーターについては、地域で担い手が見つからなかったことから、社会福祉協議会区事務所に相談したところ、同事務所内の区ボランティアセンターにて、コーディネート業務を実施可能との回答があったため、同センターにお願いすることにしました。今後、他の地区部会が取り組まれる際も、同様の方式を採用することができるよう、同事務所にお願いしてありますので、参考にいただければ、事業実施に向けて大きな課題を克服できるのではないかと考えています。

(植草委員：公募)

コーディネートされる支援協力者は、支援希望者と同じ町内とか、距離的に近い方が多いのでしょうか。

(武井委員長：中央区町内自治会連絡協議会)

本来であれば、同じ町内自治会の方が支援した方が良いということで、できるだけ近くの方を支援者に選定しているのですが、中には、あまり近所の方をお願いするのは嫌だという方もおられたり、たまたま同じ町内自治会に必要な支援を行える方がいない場合もありますので、支援協力者の所属町内自治会等についても、コーディネーターに情報提供し、必要な調整を図ることができるようにしています。ただ、こういった場合でも、極力同じ小学校区内では対応するようにしています。

(植草委員：公募)

支援を希望する際は、直接コーディネーターに連絡するのですか。

(武井委員長：中央区町内自治会連絡協議会)

そうです。

(植草委員：公募)

町内自治会長への連絡はどのようにされているのでしょうか。

(武井委員長：中央区町内自治会連絡協議会)

各町内自治会には、主に町内自治会長にご就任いただいている連絡員を通じて、支援予定をお知らせしています。また支援後には、地区部会の理事会において、理事としてご出席いただいた町内自治会長の皆様と一緒に、支援協力者から提出のあった報告書に基づき、実績を確認しています。

(植草委員：公募)

自分が支援を受ける立場で考えますと、支援協力者も大勢おられる中で、プライバシーの問題もありますし、自分とあまり良い関係ではない、信頼できない支援者が選定されると困るなと思います。先ほど支援協力者の会議を開催される予定とのお話しでしたが、支援される側の方達の意見を吸い上げる場もまた必要なのではないのでしょうか。

(武井委員長：中央区町内自治会連絡協議会)

実際の支援は、コーディネーターが依頼を受けた後、コーディネーターと支援協力者が、一緒に支援希望者を訪問し、支援の内容・方法・日程を調整してから行うことにしています。ごみ出し支援のような定型の内容でない限りは、必ずこのように対応することで、支援希望者の要望にそった内容となるようにしています。

(伊藤委員：松ヶ丘地区部会)

ある程度は、各地区部会でコーディネート業務を行っていないと、全ての地区部会が、コーディネート業務を区ボランティアセンターに担ってもらうのは無理なのではないでしょうか。

(吉野所長：社会福祉協議会中央区事務所)

確かに件数が増えてきますと、対応しきれない状況になるかもしれません。しかしながら、ボランティア活動におけるコーディネート業務は、支援希望者から相談を受け、その要望をくみ取るという重要な意義をもつものであることから、事務の効率化を図るなどして、でき得る限り対応していきたいと考えております。

(植草委員：公募)

私も、支援希望者として区ボランティアセンターにお願いしてみましたが、担当者不在で対応していただけないことが何回かありました。担当者が不在の時でも対応していただけるよう、所内の連携を図っていただきたいと思います。

(吉野所長：社会福祉協議会中央区事務所)

今後は、そのようなことのないよう改善いたします。

・各地区部会における取組みについて（グループ別協議）

グループA

場所：大会議室

出席者：石原委員、伊藤委員、植草委員、小野寺委員、佐藤委員、鈴掛委員、鈴木委員、谷口委員、長嶋委員

欠席者：井上委員、栗田委員

生活支援コーディネーター等：石川 中央圏域担当、中田 浜野圏域担当

事務局：中央区高齢障害支援課 根岸、社会福祉協議会中央区事務所 関

〈発言要旨〉

○各地区部会における取組み等

(石原委員：千葉みなと地区部会)

- ・平成29年度に設立し、設立して間もないことから、地区部会として具体的な活動に至っていない。皆さんの話を地区に持ち帰って今後の参考とさせていただきたい。
- ・千葉みなとは、マンション中心のエリアで、個人情報の共有や情報開示の確認は難しい。隣近所で電球交換等の簡単なお手伝いをしたという話は聞いたことがある。

(伊藤委員：松ヶ丘地区部会)

- ・全域で、草刈りや枝落としを年間80件程度実施している。ごみ出しは隣近所の方がやりやすいので、町内自治会に任せている。地区部会のネットワーク委員会が中心となって活動しており、地区内の元気な高齢者に担い手になってもらっている。作業時間は2時間以内。活動の継続性を図るため有償の活動としており、作業員1人につき1時間あたり500円の利用率を取っている。(400円を作業員、100円を運営経費としている。)
- ・地区部会のスタッフの確保については、民生委員や育成委員会、町内自治会等の役職に就いた方の内、熱心な方を1本釣りして協力をお願いしている。

(小野寺委員：松波地区部会)

- ・地区部会としては、支え合い活動を実施していない。町内のボランティア（元地区部会長、元町内会長等）が「松波お助けマンクラブ」を結成し、10名前後で、年間20件程度の活動をしている。草取りや剪定、電球交換等を行っており、基本料金は1回500円だが作業内容によって金額を変更することもある。ボランティア個人にはお金はいかない。ボランティアの高齢化が課題となっており、若い方に加わって欲しい。
- ・地区部会活動を進める上で個人情報の取扱いについて困っている。地区部会事業の対象者への周知や利用の意思確認を民生委員にお願いしているが、利用の意思確認が出来た方の名簿を提供してもらえない。地区部会としては利用者本人の同意が得られれば提供していただけたと考えているが、民生委員の理解が得られないので困っている。

(鈴掛委員：生浜地区部会)

(長嶋委員：中央区町内自治会連絡協議会)

- ・地区部会のボランティア委員会が、地域からボランティアを募り、56名の協力者を得て、話し相手（19件）、ごみ出し（2,500件）、買物（23件）、病院等への付き添い（96件）の活動をしている。民生委員が窓口となりボランティア委員に依頼がつながる仕組みとなっているが、個々の対応となっており、地区部会としての相談窓口がないので、検討していきたいと考えている。
- ・見守りについては2町内自治会で実施している。未実施の町内自治会で取り組みが進まない理由としては、町内自治会長が1年交代で民生委員との協議が進まないことや、なぜ町内自治会が見守りをしなければならないのか、見守りは民生委員がやるものという考え方から町内自治会の合意を得られない、といったものがあげられる。民生委員が高齢者実態調査の際、見守り希望者を確認したところ60名程度の方が希望されたが、町内自治会の協力が得られないので民生委員が見守っている。

(鈴木委員：新宿地区部会)

- ・マンションが急増しており、生活に立ち入ってほしくないという方が増えているので、関わりづらくなっている。また、見守りや支え合いの必要性を訴えても、町内自治会の理解が得られない。

(石川生活支援コーディネーター：中央圏域担当)

- ・生活支援コーディネーターには、住民主体のサービスを考えていくことも役割としてあるので、地域の皆様と一緒に考えていきたい。

(中田生活支援コーディネーター：浜野圏域担当)

- ・生浜地区は、買物に困っている方が多い地域。福祉施設が多い地域でもあるので法人の協力を得て解決していきたいと考えている。

グループB

場所：ボランティア活動室1

出席者：河田委員、草薙委員、高橋副委員長、長谷川委員、堀江委員

欠席者：坂本委員、野與委員、村井委員

生活支援コーディネーター等：川上 新千葉圏域担当、中村 千葉寺圏域担当

事務局：中央区高齢障害支援課 大塚、原田

〈発言要旨〉

○各地区部会における取組み等

(高橋副委員長：ちば中央地区部会)

- ・ちば中央地区部会エリアでは、民生委員や福祉活動推進員が個別に行う支え合い活動のみで、組織だっでの活動は行っていない。これまで、取組みの推進に不可欠な町内自治会の協力について、町内自治会長の理解が得られなかったことが原因であるが、町内自治会長も高齢化し、明日は自分が支援される側に立つかもしれないという意識が芽生えつつあることから、今後、関係者間で協議していければと考えている。

(長谷川委員：末広地区部会)

- ・向こう三軒両隣の精神で、各町内自治会で支え合い活動を行っているため、地区部会として行う予定はない。

(草薙委員：寒川地区部会)

- ・4年前に避難行動要支援者名簿を町内自治会ごとに作成し、向こう三軒両隣で要支援者の見守りを行っていくということで協力者を募集した。この協力者を中心とする隣近所の方や民生委員が支え合い活動を行っており、地区部会として行う予定はない。

(堀江委員：あんしんケアセンター千葉寺)

- ・ちば中央地区部会、末広地区部会、寒川地区部会の属する圏域を担当しているが、比較的隣近所の付き合いが密接で、日常的な見守りがお互いに行われている地域という印象であり、寄せられる相談は、町内自治会未加入者等の地域のつながりからもれてしまった方に関するものが多い。
- ・地域の方からは、後継者が不足し活動の継続すら困難な中、新たな取組みを開始しても後継者がいない現状と聞いており、担い手確保の観点からも、まずは地域住民に支え合い活動の必要性を理解してもらう取組みを行うことが必要である。また、仕組みづくりを行う際には、すでに身近なコミュニティで行っている活動があることから、町内自治会と調整する必要がある。

(川上生活支援コーディネーター：新千葉圏域担当)

- ・町内自治会や地区部会の皆さんからは、後継者不足のため現状維持が精いっぱい、民生委員の負担も増えていると聞いている。
- ・町内自治会未加入者への支援をどのように行っていくかが問題であり、未加入者でも利用できるサービスの発掘や、サービス利用を動機付けとした町内自治会加入の働きかけを行っていくことが必要。

(中村生活支援コーディネーター：千葉寺圏域担当)

- ・会長が輪番で定期的に代わる町内自治会も多いことから、町内自治会に限定せず、老人クラブや避難所運営委員など、幅広い人材を生活支援の担い手として想定している。
- ・多種の支援を一手に行うのは難しくても、ニーズの多いものから行っていければ良い。相談等を受けた中では、ごみ出し支援に関する要望が最も多い印象である。

○意見・要望等

(高橋副委員長：ちば中央地区部会)

- ・市は、町内自治会未加入者を減らす努力をもっとすべきである。
- ・地域の町内自治会加入者は、町内自治会費を負担していない未加入者を加入者と同様に支援することには納得できない。
- ・グループ別協議を継続するのであれば、同じメンバーで行い協議を深めていきたい。

(堀江委員：あんしんケアセンター千葉寺)

- ・国や市からの働きかけのみではなく、地域教育等による支え合いの機運づくりが必要である。

グループC

場所：ボランティア活動室2

出席者：池田委員、宍倉委員、進藤委員、武井委員長、土屋委員

欠席者：鏑木委員、木村委員、杉野委員、長谷川委員

生活支援コーディネーター等：あんしんケアセンター松ヶ丘 長谷川管理者

事務局：社会福祉協議会中央区事務所 吉野、村田

○各地区部会における取組み等

(池田委員：川戸地区部会)

- ・新たな取り組みとして社会福祉法人りべるたすと連携し買い物支援や施設の軽トラックを利用してゴミ出し支援を実施している。現状では利用者は2～3名となっている。課題として、今後、利用者をどのように増やしていくか、民生委員がコーディネートを行っているが住民に民生委員というものが知られていない状況もあり、こちらもPRをしていく必要があると感じている。今後の展望としては利用者に対してもPRなどを行い活動の充実を図りたいと思っている。

(土屋委員：白旗台地区部会)

- ・白旗台地区部会の活動内容は武井部会長より先ほど「白旗台地区部会における取組みについて」（資料2）で説明。地区部会には町内自治会、民生委員など様々な団体が所属しており各種団体が連携し実施している。内容は庭の草取り、買い物、ゴミ出し、電球交換の4項目に絞っている。実績について、活動開始は7月でゴミ出しの新規は2件となっている。草取りに関しては7月、8月など活動の休止期間を設けている。実施に際し一番問題になったのはコーディネーターの人選であった。結果として社協のボランティアセンターにお願いすることになった。先ほど伊藤委員（松ヶ丘地区部会）から意見があったが依頼件数が増えてきた場合どうするのかといった問題は確かにあるが、まずはやってみようということで始めてみて、問題があればそこで対応していこうと考えている。

(武井委員長：中央区町内自治会連絡協議会)

- ・理解があり進んでいる町内自治会であっても会長が変わることで活動が止まってしまうことがあるが、極力説明を心掛けている。また、総会後に研修会を実施し地区部会活動について説明を行っている。

(進藤委員：星久喜地区部会)

- ・現状では実施していないが買い物支援に関しては施設から打診はあったが、民生委員が付き添いをするという部分の対応が難しいということになり見送った。買い物に限らず、今後支え合い活動を展開していくのであれば現状の民生委員などの地区部会活動従事者以外で協力者が必要となるという話になっている。
- ・エリア内の町内自治会でゴミ出し支援を行っている場所はあるとのことだが把握はしていない。エリア内に拡大していくにしても、担い手の確保が問題。また、各町内自治会の協力が不可欠だが会長が輪番制となっており理解を得るのが難しく、町内自治会未加入者が増えてきている。

(鐺木委員：中央区民生委員児童委員協議会（蘇我中学校区）)

- ・買い物支援では民生委員が付き添うということであったが、これは施設側からの要望だったのか。

(吉野所長：社会福祉協議会中央区事務所)

- ・必ずしも民生委員が担うものではなく、当初、若葉区でこの仕組みを導入した際、民生委員・町内自治会の方がこの役割を担ったことから、そのような調整になってしまった部分もある。協力できる方がいたほうが良いのは確かだと考えている。

(宍倉委員：蘇我地区部会)

- ・買い物支援など支え合い活動に関しては、今後の課題となっている。現状は見守り活動に力をいれ、災害時の要支援者名簿を各自治会で管理してもらえよう働きかけをしている。また、5年前に地区部会で75歳以上の独居の方に安心カードを配布したが、現在は、町内自治会未加入者への配布も行っている。また、見守り活動の周知のため声掛け訓練も行っており今年でエリア内の全地区で実施できることから、今後は支え合い活動について、町内自治会の方々と話し合っていきたいと考えている。

○意見・要望等

(宍倉委員：蘇我地区部会)

- ・やはり担い手の問題がある。ボランティアといっても限界があり、施設などの協力や行政からの資金面や活動拠点などの支援なども必要。

(鐺木委員：中央区民生委員児童委員協議会（蘇我中学校区）)

- ・老人会はいきいきセンター内にスペースが確保されているが、そういったものがなければ相談するにも部屋を借りる経費がかかることには疑問を感じている。

(黒木主査：地域福祉課)

- ・現在は福祉施設のスペースを利用できることもあるので、知恵をしぼっていかないといけないと考えている。

(長谷川管理者：あんしんケアセンター松ヶ丘)

- ・施設に関しては地域に開かれたということで圏域内の地域交流スペースを利用できる場所はあるが、活動の拠点としてとなると難しい。また、居宅介護支援事業所などは担い手として通勤時などのゴミ出しの協力やあんしんケアセンターとしても自治会の一員として協力できることはあるかと思っている。

(黒木主査：地域福祉課)

- ・拠点として公民館が指定管理者となったことから社会教育以外の地域課題にも取り組んでいこうということで地域の拠点として利用をという話もありますので、ご検討ください。

(武井委員長：中央区町内自治会連絡協議会)

- ・地域支え合いの活動について重点課題としている地区部会が良いが、そうでない地区部会もある。急な話のようで心配に感じることはないのか。地域支え合いの仕組みづくりを喫緊の課題として重点におき実施するならば、前の見守りと同じように予算取りもして3か年で実施するなど中央区として明確にしていってほしいのではないかと。現状で正式にきている話としては重点課題を各地区部会で決めて、それに取り組んでいる。にもかかわらず、この話を取り上げるのであれば、計画的にすすめるための裏付けとして予算を確保するなど必要なのではないかと。また、中央区の活性化支援事業の内容もどのように審査しているのか。きちんと審査し、良いものにしていきたい。

その他

(大塚課長補佐：中央区高齢障害支援課)

次回推進協の開催日程について調整して頂きたい。

(武井委員長：中央区町内自治会連絡協議会)

平成30年度第3回区支え合いのまち推進協議会は、3月22日(金)の午前10時からとする。

以上